平和記念館を神戸に！にゅーす

神戸に平和記念館をつくる会　第 10 号　2025 年 7 月発行

平 和 憲 法 の 心 を 守 り た い

2025 年は第 2 次世界大戦終戦 80 年、ヒロシマナガサキ被爆 80 年であり、非核神戸方式 50 年、阪神淡路大震災 30 年という区切りの年です。

世界大戦後も戦火は止まず、現在のロシアのウクライナ侵略戦争、イスラエルのガザでのジェノサイドを、国連は止めることが出来ません、連日、悲惨な映像が流されています。

そのもとで 2024 年に日本原水爆被害者団体協議会がノーベル平和賞を受賞しました。国連の核兵器禁止条約も広がっています（署名国 94，締約国 73)。核戦争に直面してると、世界中が危機意識を持っていると感じています。

しかし唯一の被爆国である日本は、核兵器禁止条約に背を向けています。

自公政権は、戦争の深い反省からつくられた平和憲法を踏みにじる政治を進めています。

私たちは、昨年 6 月 30 日に矢野宏（「新聞うずみ火」代表）さんを講師に「今こそ平和を考えよう！」という学習会を持ちました。

沖縄県民の反対を無視した米軍の沖縄辺野古新基地建設、国境の島での「台湾有事」等を口実にした自衛隊のミサイル基地建設が進められている状況が紹介されました。そして戦争の準備を推し進める国の実態について、参加者のみなさんと意見交換を行いました。

昨年の総選挙では「裏金」に対する国民の怒りが、自公政権を過半数割れに追い込みましたが、医療、福祉等の暮らしを切り捨てて軍事費を倍増させる政治は止まりません。

一部野党の協力もあり、また戦争を体験された人々が減ってきたためか、軍拡政治を批判する世論の盛り上がりは力不足です。

私たちは、平和記念館の実現を要望しながら、戦争を起こさない、戦争に巻き込まれない、戦争に関わらない日本をつくりたいと思います。　（世話人代表　長久武司）

歴史公文書館建設に対する神戸市への要望と回答

私たちは、署名提出など神戸市に平和記念館建設の要望を繰り返し行っていますが、前進した回答はありません。

現在、神戸市は兵庫区で「歴史公文書館」建設を進めています。昨年 5 月 14 日、私たちは神戸教組、やのこうじ、香川真二両市会議員と一緒に、そこの展示内容の要望を行いました。

神戸教組も、平和教育のために一クラスの生徒が入れる広さを持った神戸空襲等の常設展示の必要性を訴えました。

神戸市からの回答は以下の通りでした。

「旧岡方倶楽部の 3 階建てを改修工事して、そこに常設展示室を設ける。二部屋で約 56 ㎡です。別途、特別展示を行う講堂約 130 ㎡があり、ここでそういった企画をしたい」

私たちは、兵庫図書館の「戦災資料室」や 8 月の中央図書館ロビーでの戦災資料展示、神戸市のホームページ「神戸　災害と震災　資料館」だけでは、不十分だと思っています。 引き続き平和記念館を要望していきます。

「2025 神戸空襲と神戸港の写真展」に３５０人来場

写真展は3月 25 日から 30 日まで５日間(26 日は休館日)開催しました。

今年は、第 2 次世界大戦の敗戦 80 年、非核神戸方式が神戸市議会で議決されてから 50 年の節目の年にあたり、展示内容は①「神戸大空襲」、②「軍需産業の拠点・兵站基地として使われた神戸港(戦前の神戸港から非核神戸方式まで)」、③「広島・長崎被爆 80 年」、④「各地の特徴のある平和記念館」の 4 つのテーマで構成しました。

① 神戸大空襲　阪神工業地帯の中心として、鉄鋼・化学・造船・航空機産業などの工業地帯が広がっていた神戸と神戸港。艦船建造の造船所、航空機製造工場等が軒を連ね、鉄道と港湾が鉄道で結ばれ、さらに神戸港には兵站を担う陸軍埠頭まで設置されていました。神戸市の人口は約 100 万人で、工場地帯を中心に木造の住宅街を形成していました。

空襲は 128 回あり、被害の大きかった 1945 年 2 月 4 日・3 月 17 日・5 月 11 日・6 月 5 日・8 月 5･6 日の 5 回を神戸大空襲と呼んでいます。この大空襲被害を時系列で展示しました。

また、7 月 4 日の空襲ではパンプキン爆弾(模擬原爆)が広島・長崎の原爆投下訓練として市内 4 カ所投下されました。空襲の戦災被害地図（辻信一氏から寄贈）は、神戸空襲がいかに大きかったかを表しています。

新たな試みとして、神戸市の中学 3 年生が使う歴史教科書「第 2 次世界大戦の展開」を展示しました。

大空襲被害は、ロシアのウクライナ侵略による戦争被害や、イスラエル軍によるガザへの攻撃の被害とも重なり、「戦争はやってはいけない」という感想が多く寄せられました。

② 軍需産業の拠点・兵站基地として使われた神戸港　兵站基地として使われた港、鉄道と港湾の関連、飢餓作戦による神戸港封鎖のための機雷投下、川崎造船所で建造された艦船の写真、神戸港の米軍の標的となった工場などを地図で示しました。

敗戦によって GHQ に接収された不動産等の地図や写真、朝鮮戦争では出撃基地として使われた接収地、ベトナム戦争ではアメリカ第 7 艦隊の物資の補給基地として使われた埠頭、神戸港に入港した核積載の空母や潜水艦、これらに反対する運動などを展示しました。

ラロック証言などで、アメリカの艦船には、核兵器積載しているという疑いが強まり、市民運動の高まる中、1975 年 3 月、神戸市議会で非核神戸方式が決議され、それ以後アメリカの艦船の神戸港入港がありませんでした。しかし、この写真展開催中に「非核証明書提出なし」で米艦船の入港があり、その報道記事を展示しました。

③ 広島・長崎被爆 80 年　被爆体験を聞いた高校生が、その場面を絵にした写真を展示しました。「背中を大やけどした父」「校庭でなくなった人の遺骨を拾う」「多くの遺体が一度に火葬されたあの日」等でした。展示資料は広島の原爆記念館からのデータで作成しました。

④ 日本各地の平和記念館　「明治以後日本の戦争への歩み」「神戸市の歴史公文書館の整備」「全国の平和記念館」を展示しました。

参加者からの感想文

※感想文は 190 通集まりました。ご協力ありがとうございました。

○ せんそうをけいけんした人も 80 さいをこえていてなくなってしまったりなど、せんそうをかたる人が少なくなっているので、このかつどうはとても大切だと思います。これからの世代に、せんそう、かくへいきのひさんさをつたえて、にどとこんなことがおきないようにすることがとてもひつようだとおもうので、このようなかつどうを、ふやしていくべきだと思います。」（小6　10 代）

○ 知らなかったことや、見たことのないような写真を見られて、非常に衝撃を受けた。忘れてはいけないと思った。　（20 代）

○ 神戸で生まれ育ち、戦前の被害はなんとなくしか知識がなかった。こうして神戸空襲の被害率は日本最大であったこと、詳しく被害内容など知れて良かった。今後戦争のない世界になるよう、政治にも関心を持っていきたいと思いました。　（40 代）

○ 昭和 2 年生まれの実父(林田区真陽小学校卒、終戦時陸軍軍属、2006 年没)から、断　片的に神戸空襲や大阪空襲の記憶を聞いたことがあったものの(父本人は戦時の記憶を聞いたことがあったものの)、父本人は戦時の記憶を子供にはあまり語りたくなかった?のか、直接聴く話はほとんど無いままに(2006 年 80 歳で)他界。今となっては、長男の私が 60 歳を超え、父の生前にもっと聴いておくべきだったと後悔です。　（60 代）

○ 私は生まれたのは灘区友田町、震災は免れ 4 軒長屋の 1 軒で、戦前から住人で居たとのこと。小学校は鉄筋コンクリート建てでで、私が通学していた時はまだ黒く塗られていました。空襲の写真を見るとまさしく今のウクライナ、ガザで心が痛みました。一日も早くロシア、イスラエルの侵略戦争を終結させる為国際世論を今まで以上に広げていかなければならないと思いました。一日も早く「平和記念館」が建設されることを願っています。　（70 代）

※　感想文は原文のまま掲載させていただきました。

学習会報告　「被爆者のねがい と ノーベル平和賞受賞」

3 月 29 日、「兵庫県被爆二世の会」の瀬戸口美和子さんを講師にお招きして標記の学習会を 32 名の参加で開きました。

瀬戸口さんのお話は「父は、高知の生まれで九州大学在学中の学徒勤労動員先が長崎の三菱造船所でした。8 月 9 日の原爆投下後に長崎市に入り被爆しました。」から始まりました。「日本原水爆被害者団体協議会」(略称・日本被団協)は、1956 年第 2 回原水禁世界大会で結成され「私たちは自らを救うと共に私たちの体験をとおして人類の危機を救おう」と誓い合い、草の根の運動を続けてこられました。被団協の歩み・国際活動を丁寧に話され、これまでの活動と今の世界の状況がノーベル平和賞受賞に結びついたのだと納得しました。

最後に授賞式の様子とオスロへ紡いだ 80 年の想いがこもったビデオを見せて頂き、核兵器廃絶への気持ちが強くなりました。

（参加者の感想より）

☆ 被爆者の粘り強い闘いに強い敬意を表します。核兵器廃絶まで更なる闘いが必要ですが、私も少しでも役立つよう決意を新たにしました。

☆ 原爆投下以降の被爆者の運動の歴史、及びその後の原水爆禁止運動の経過等詳しく述べていただき大変良かったと思います。日本もアメリカの核の傘から脱却して、真の平和を追及すべきですね。

「平和ミュージアム見学バスツアー」を開催

去る２月 25 日（火)、「神戸に平和記念館をつくる会」と「西神ニュータウン９条の会」の共催で「立命館大学国際平和ミュージアム見学バスツアー」を企画し、４２名が参加しました。

1992 年に開館したこのミュージアムは、戦争の実態と平和をテーマに、全国的にも大きな役割を果たしてきました。2023 年９月に２年間の展示リニューアル期間を終え、再開館しました。

以前は、地階と２階に分かれていた常設展示を地階のみに統合し、入り口の動線から片側の壁面一杯に、現代までの戦争や暴力的な出来事が写真や図表により年表展示されています。また動線の反対側は、「帝国主義」「１５年戦争」「戦後の世界」「国際平和」の４つのコーナーによるテーマ展示で、動画や証言などにより構成されています。疑問やより詳細な内容については、会場内の見学ガイドの説明やグループ内での意見交換などで深めました。展示の各所に「あなたはどう思いますか」という問いかけがあり、史実を知るというだけでなく、見学者が自ら思考し、他者と共有することをうながす構成が印象的でした。

それぞれが平和への思いを胸に参加し、見学により内容や展示方法などについて学び、そして考える貴重な経験となりました。

本の紹介

「神戸 ― 戦災と震災」

著者　村上しほり　　筑摩新書　1,320 円

作者は神戸生まれ、神戸育ちで３８歳。神戸大学卒業で現在は神戸市職員（公文書専門職員)。震災時、神戸新聞に掲載された陳舜臣の「神戸よ…」で始まる文に感動し、新たな「神戸」を考えている。近代における神戸の開港の経緯から、戦時下での市民生活と被災から復興に向けての動き、そして９５年の震災からの復興を立ち上げ、主に行政面から分析し、評価を記している。ただ、神戸港の戦争利用の記載が欠けているのは残念。しかし、こういった分析と評価は新書版としての「神戸史」としては、初めてではないだろうか。神戸市市民運動に携わっている人にとっては必読だと思います。　（米田哲夫）

神戸に平和記念館をつくる会　会計報告

（2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日）

（収入）	前年度繰越金	19,598	
	カンパ	86,260	個人￥29,850、学習会、空襲展￥46,410
	参加費	38,000	学習会２回 @￥500×76 名
	受取利息	2	ゆうちょ銀行
	合 計	143,860	
（支出）	会場費	31,000	世話人会 月１回 学習会２回
	事務費	11,707	封筒、印刷用紙等
	印刷費	13,820	コピー、チラシ印刷代
	講師料	20,000	
	通信費	32,120	ニュース、チラシ等の郵送料
	未払金	25,000	前年度の借入金返済
	合 計	133,647	残高 ￥10,213

お 願 い

いつも、会の活動にご協力をいただきありがとうございます。

神戸空襲を次の世代に伝え、いつでも、誰でも学べる「平和記念館」設立を目指しています。

「会」は会員制ではなく、催しの参加費とカンパで運営しています。

私たちの活動継続にご協力をよろしくお願い致します。

連絡先：神戸に平和記念館をつくる会　電話 090-6370-9317(長久武司)

募金振込先：郵便局〔店番〕438 普通預金〔口座番号〕8808444